

最後のプレゼント

内臓がチリチリするような哀しみ
苦しくて息も吸えない悲しみ

母さん、あなたが完治しない病気だと
診断されたあの日から
私は生まれ変わったように
あなたを想うようになった

東京と三重で遠いから
毎日眠る前に呟いた
「だーい好き、母さん」

デイケアでのラジオ体操
跳躍はできないから
椅子の背につかまって 足踏みして

私も後ろで一緒に足踏みしてたら
チラッと私の方を見て、ウンって
うなづいたよね
あれが最後の姿だった

また会えると思っていたのに

でも一番高いアイスを食べさせてあげられて良かった

あなたを想い過ごした日々は
私に人として一番大切な物が何かを教えてくれた
それが母が私にくれた最後のプレゼント
きつと私の遺伝子に組み込まれ
いつまでもいつまでも生き続ける